【資料６】

令和５年度第１回愛知県義務教育問題研究協議会の協議内容

Ⅰ　外国にルーツを持つ児童生徒が抱えている困難さは何か。

一口に「海外にルーツを持つ児童生徒」と言っても、生まれた土地や両親の国籍、来日の経緯や時期など多様です。一人一人の日本語の習得状況や学校への編入時期なども様々で、直面する困難さは多様です。

Ⅱ　外国にルーツを持つ児童生徒を受入れ・共生を進めていくための課題は何か。

Ⅰで明らかにされた課題を解決していくため、小中学校では、どのような取組を進めていく必要があるかを明らかにできればと考えます。